

フレッシュ・パーソン・セミナー グループ討議

『図書館の企画・広報・PR—利用者に図書館をもっとよく知ってもらうために—』

(6班) 記録	岩手大学	井上 早苗
司会	岩手県立大学	伊藤 美希子
発表	盛岡大学	橋田 夏代
	東北大学	阿部 美南子
	東北学院大学	遊佐 圭代
	東北福祉大学	八巻 千穂
	宮城学院女子大学	大宮 保代

【1】各大学の発表

＜現在行っている企画・広報・PR等と、その問題点・改善点について＞

ほとんどの大学に共通していたのは、図書館ガイダンス、選書ツアー、教員推薦、テーマ展示、新刊コーナーの設置、などといった取り組みであった。他にも、貸出ランキングの紹介、データベースやMy Libraryの利用講習会、絵本コーナーの設置、図書館報の発行、ライブラリーカレンダーの作成など、様々な活動が紹介された。

これらの問題点・改善点については、次の点が挙げられた。

- ・ 利用率に大きく効果が現れているとは言えないため、利用促進に目を向けた企画の工夫を行いたい
- ・ 企画展示は利用者の興味関心がなければ集客できない、利用者の興味を引くような空間づくりや場所も大事
- ・ 図書館内ではPRできているが、図書館外へ情報が行き渡らない
- ・ 展示や企画はしっかりと計画を練る必要があるため時間がかかり、準備に人手もかかる
- ・ 常勤・非常勤・アルバイトにかかわらず、職員が一体となって取り組む必要がある
- ・ 図書館側の一方的な取り組みになっているので、利用者の意見を反映できるような体制を整えていきたい

＜今後やってみたい企画や広報活動、効果的なPR方法と、課題や問題点について＞

図書館紹介の映像化、選書ツアーの回数を増やす、時事等をテーマにしたコーナーの設置、利用者アンケートの実施、フリーペーパーの作成、利用促進キャンペーン、大学の専門性をアピールした企画、ツイッターやフェイスブックの利用、などのアイデアが出された。しかし、やはり手間がかかるため、なかなか実行に移せないという問題点や、ツイッターなどはくだけすぎているというような意見が挙げられた。

また、効果的なPR方法としては、カウンターでの声かけやポスターの増加、新入生オリエンテーションの活用、などの意見が出された。

【2】討議

それぞれの発表をもとに、興味深かったいくつかの点について話し合いを行った。その内容を以下にまとめる。

- ・ 図書館紹介の映像化に関して

宮城教育大学では、大型テレビを利用して、新刊案内や貸出ランキングなどの情報を映し出している。以前はスポーツ中継も無音で流したことがあり、学生の評判がよかった。テレビは学生の目に留まりやすく、広報として幅広い活用法があるのではないかと。

- ・ 学生の反応がよかった企画について

選書ツアーは、様々なジャンルから図書が集まり、学生の興味を引くものが多い。学生が学生のために行う活動は利用促進に効果的である。

人数が集まらない場合、先生方に研究室の学生を推薦してもらうことがあるので、教員との連携も必要。

- ・ 図書館利用ガイダンスの方法

案内方法としては、チラシ・ポスターでの呼びかけ、先生方を通してゼミなどでPRすることが多い。

盛岡大学では入学時、全体ガイダンスで図書館の利用方法を説明し、図書館企画として、段階を踏んでの利用講座を実施している。

このような例から、授業への組み込みや、先生方に呼びかけを依頼するのがよいのではないかと、という意見が出された。

- ・ 効果的なPR方法

カウンター付近にコーナーを設ければ利用者の目に留まりやすいのではないかと。また、コーナーを頻繁に新しくすると動きがあって興味を引きやすい。

企画コーナーには、話題性のあるものを集め、図書だけでなくDVD等も置けたらいい。他にも、目に付きやすいトイレにポスターを掲示する、マスコットキャラクターを作る、といったアイデアが出された。

- ・ フリーペーパーや図書だよりの充実

ぱっと見て分かりやすいもの、印象の強いものを作成し、目に訴える。

- ・ ツイッター・フェイスブックなどの利用

図書館外への情報伝達に有効である。面と向かうよりも利用者の様々な意見や本音が伺えるので、意見の収集場所としても大いに活用できる。一方で、公にさらされるので怖い面もあるということに注意しなければならない。

【3】まとめ

話し合いの結果、図書館をもっとよく知ってもらうための効果的な取り組みとして、次の3点にまとめられた。

① 学生目線での活動

学生主体の取り組みは、学生が求めているものを広く反映でき、多くの学生が目を向けてくれる。また、図書館にも活気が生まれ、変化する大きなきっかけになる。

② 教員との連携

学生に直接的に呼びかけることができ、実際に学生も動いてくれるので効果が大きい。

③ ソーシャルメディアツールの活用

ツイッターやフェイスブックなどは、瞬時に幅広く情報を行き渡らせ、双方向でのやりとりも可能にする。

これらに焦点を当て、多くの人に関心を抱いてもらえるような新しい企画や広報活動を生み出していきたい。自分たちが抱くイメージを利用者に伝達するよりよい方法を考えていくことが、今後私たち図書館員が取り組んでいくべき課題である。